



竹千代賞

イラスト

勝間田 早矢

わたしは今まで絵を描くことは全く無縁の日々を送っていた。別に美術で絵を描くことはあってもさほど好きではないし、強いて言うほどのエピソードもない。せいぜいかわいいイラストを描いている作者さんに感動して、こんなイラストを描けたら楽しいだろうなと考えるくらいだ。

パソコン部であるわたしは、毎年秋に提出する文書デザインコンテストに向けて作品作りをしている。おまかにコンテストについての説明をすると、ワードを使い、日本情報処理検定から提示されるテーマに沿ってポスターを作るというものである。

わたしは去年(中2)、このコンテストで佳作を取っている。一応2020作品中の受賞であるため自分でも褒めてあげたいものである。その作品は、私の大好きな友達との合作だ。ポスターに描いてあるかわいいイラストはその友達が描いたのだ。つい数週間前まで友達と今年のポスターも合作にしたいね、と話していたのだが：望みは友達に不幸があったため二度と叶わなくなってしまう。今年のポスターは、合作で作ることが叶えられなかった友達のためにも最高の作品にしなくてはいけない。

今回のテーマが「20年前と今」で、題材をわたしと友達が好きなファッションにした。本当は友達がイラストを去年みたいに描いてくれる予定だった。しかし、前述通りそれは不可能である。

それでもわたしは「まあ、どうにかなるでしょ」と自分でもよく分からないが思い立ち、自分でイラストを描いてみることにした。なんとなくの勢いと軽いノリである。

いざ描いてみると案外大変である。まず、洋服ひとつ描くにしてもバランスが分からず全くかわいくない。ネットで調べたワンピースのイラストを真似してみたが全然うまくいかない。早くも詰んでしまった、泣きそうである…。しかし描いていて思った。雑誌のコラムに出てくるようなきれいな洋服のイラストはわたしには向いていないと。いっそ誰かの写真を真似して描くのではなく、写真の洋服を画材として自分でデフォルメした緩めのイラストを描いてみよう。描いてみると案外その画風が自分に合っていることにも気づいた。

最初に完成したのが、1980年代の制服のイラストである。画材のポイントを押さえて描いたつもりだ。具体的にいうと短めのスカートとベストタイプのカーディガンだ。こうやってポイントを押さえるだけで案外きれいに見えるもので、自分でも、「あれ？ 割とかわいく描けてるじゃんか」と思うイラストが描けた。しかもその絵が割と周りからも好評だった。絵で褒められることなんてないから純粹にうれしい。

さあ、人はうまくいくと調子に乗るもののように、すぐにわたしは、80年代現在の制服のイラストに取り掛かった。制服の移り変わりを描いてみようと思ったのである。そこで、クラスの教卓に置いてあった高校のパンフレットにある写真の制服がかわいかったので、参考にすることにした。これはルーズ感を出そうと最初から決めていたので案外すんなり描けた。それと、りぼんもかわいく描けたと思う。

…どうしよう。ここにきて次に描くイラストが全く浮かばなくなってしまった。20年前のファッションって何？ 自分がまだ生まれていない頃のファッションを描くのは本当に難易度が高すぎる。パソコンで調べてみても具体的にイメージできるものが少なくて、いざ描いてみようと思ってポイントがつかめなすぎる。

悩んだ末に親に協力してもらうことにした。その時代を生きていた人の実際の意見がなによりも説得力があ



るものだった。たくさん話が聞けた。描いてみたい洋服のイラストが頭の中にいくつも浮かんだ。今思うとパソコンとにらめっこをして悩んでいるよりも、最初から話を聞いていけばよかったと思う。

裏原宿風の服を描いた。デニムのサロペットとボーダーの洋服だ。裏原宿系の洋服もたくさんおしゃれなものがあつたので、わたしの好みで画材は選んでみた。

これを描いていて思ったが、20年前のファッションは色が明るくて本当にかわいい。そしてそんなかわいいファッションが案外見慣れたものなのだ。今のファッションは案外20年前に似ているということに気づいた。次に描くのは20年前と現在の共通点が分かるイラストにしてみようと思ひ、最初に描いた制服の短めスカートを今のファッションに取り入れて別の服を描いてみようと思った。そして短めのプリーツスカートのイラストを描いた。トップスはロング丈のものにして今らしさを強調してみた。これもまたかわいく描けて自分でもいなど自画自賛してしまう。

家だけでは間に合わないため学校で描くことにした。教室で描いていたら何人かの級友が褒めてくれた。「その服作ってー」と言ってくれた。わたしは『褒められると調子に乗りつつも、結果的に伸びるタイプ』だと自分で思っている。前回よりも、ものすごくいい絵が描ける気がした。気持ち的にも乗り気になった。そんな思いで出来上がったのが、『一番の傑作』ワンピースのイラストだ。ウエスト周りの形や襟の形に力を入れ、本当に自分でも納得のいくものが描けた。

絵を描いて楽しいと思う人の気持ちが今まではよく分からなかったが、調子に乗ってきたわたしにはその気持ちかわかる気がした。楽しいし、出来上がっていくたびにワクワクする。

その調子で、夏休みの宿題の暑中見舞いも、マリン風のワンピースをいろんな画材を組み合わせて描くことにした。今回は色も付けて描いたが非常にいい感じにできたので嬉しかった。いろいろな画材を組み合わせてイラストが描けるほど、自分のイラスト力が確立してきたかなとも思った。

その後もコンテストに向けたイラストを結構たくさん描いたが、気分が上がって描きすぎたため、ポスター

には入りきれない数になってしまい、いくつか没にすることになってしまった。：残念。しかし、頭の中でポスターに向けたイメージが出来上がってきたため、洋服のイラストだけでは何かが足りないとなんか寂しいなと思った。そこで、ファッションの小物も描いてみようと考えた。

親から聞いていたロングブーツを描くことにしたのだが、これがまた大苦戦！ 今まで洋服しか描いてこなかったし、靴を描こうとすると、なぜかとても細かいデザインになってしまって、今までの画風と合わなくなってしまうのだ。過去のわたしだったら挫折したかもしれないが、今はイラストを描くことがとても楽しい。だからたくさんパターンを変えながらロングブーツの絵を描いてみた。描いて、消してを繰り返した。どうにかこうにかで自分の納得のいくものが描けた。小物なのに今までで一番苦戦した気がする。だからイラストの中では一番愛着がわくものに完成した。

ほかにも小物として、ローファーとチョーカーなども描いてみた。これらは画材を探すのが大変だったけど、ローファーだったらロングブーツを描いた時の型を再現してローファーに見えるようにアレンジしたり、チョーカーだとりぼんデザインになっている比較的簡単なものを選んだりしたので、スムーズに仕上げる事ができたのでよかった。

これで一通りイラストを全部描き終えた。色の組み合わせを次に考えることにした。これは、画材を再現しているものがほとんどのため悩まずに案外すんなりと決まった。

さあ、やっと手描きで描いたイラストを先生にスキャンをかけてもらい、パソコンに落としてもらおうと思っただころで思い出してしまったのだ。去年のイラストは全て、ペイントの機能を使って手作業でマウスを使わずに、ペイント作業をしていたことに。だから、四つくらいイラストしか描いてなかったにもかかわらず、ものすごく時間がかかってしまったのだ。思い出したくなかったが：案の定、先生にイラストを取り込んでもらい、ペイントソフトを使い一発で色塗りができないかと試みたが無理だった。全部のイラストのペイントを、手作業でマウスを使って描いていけないといけないのだ。去年みたいに二人での作業ではなく



一人でやらないといけないのだ。寂しいし大変…。

今はその作業の真最中だ。ずっとパソコンを見ての作業で目がチカチカするし、時間がなくて焦っているけど、大好きな友達の為にも、二人では叶えられなくなってしまった受賞の夢を叶えたいのである。

やはり、応募作品の中で優秀賞をとっているパソコン教室の人たちや専門学校生の作品は、イラストが細かくきれいだったり、読んでいて引き込まれる内容だったりする。二年連続の受賞なんて不可能かもしれない。でも妥協はせずに全力で作りたい。時間がかかってもいいから、何としても納得いく形でこの作品を完成させることがわたしの目標だ。わたしの描いた絵が審査員の目に届いてほしい。

今回の新たな経験を経て人のイラストをまねして描くのではなくて、自分の描き方を見つけられた。描いていてとてもワクワクしたし、描きあがったイラストを見て達成感とときめきを感じた。だからわたしは今後も機会があればイラストを描きたいと思う。

新たな自分の好きを久しぶりに見つけられてワクワクしている自分がいる。その好きなことは伸ばしていけたらいいと思う。